



# さくら 2008 春

発行  
社会福祉法人 東桜会  
第 19 号

〒420-0962  
静岡県葵区東 527 番地の 1  
特別養護老人ホーム 麻機園  
TEL 054(247)8739  
FAX 054(247)8640

特別養護老人ホーム麻機園 園長 秋山 通

平成 20 年度も早一ヶ月が過ぎようとしています。

私は、年齢を重ねる毎に時間の経過を早く感じるようになり、「あっというま」に 1 週間、1 ヶ月が過ぎてしまうように感じます。今年の 4 月 1 日には麻機園は開園 20 周年を迎えましたが、この 20 年もあっというまに過ぎ去り、開園式典がつい昨日のように思い出されます。式典は 1 階のデイサービスセンターで挙行し、静岡市長様を始め、市内各方面のご来賓の皆様にご臨席賜わり「静岡市の福祉のために」と皆様から激励のお言葉を戴きました。当時の麻機園はまだ二階建の園舎で、三階はもちろん、東側の「さくらんぼ」や「会議室」「さくらの広場」等もなく、職員数も少く、全てがこじんまりとしていたように思いますが、毎日が新鮮で充実し、職員総出で利用者の入浴をお手伝いしていました。

開園当初の職員名簿を紐解きますと 26 名の名前が記されていました。懐かしくその一人ひとりに思いをはせると同時に、その中の 5 人が今日まで一緒にお勤め戴いたことに、ただただ感謝の気持ち一杯になります。近年は、入社しても数年で退職する若者職員が多いようですが、現在一緒に働いている職員の皆様には、これから 10 年、20 年と永きに渡り当法人でお勤め戴き、大勢のお年寄り皆様のために、持てる力を発揮していただきたいと思います。4 月 1 日の式典で表彰を受けられた永年勤続職員のように、一人でも多くの職員の皆様が東桜会で永く介護を続けられることを期待し、また永く勤められるような職場になるよう努めたいと思います。

## ～ 創立 20 周年開園記念日 ～

麻機園 20 回目の開園記念日は、うららかな春の日差しが心地よい素晴らしい日となりました。園庭の桜も咲き誇り、まさに春らんまん祝賀ムード一色です。

さくらの広場では入所者が集い、多くの方からお祝いの言葉を頂きました。突然マイクを渡され、照れながらもしっかりと話して下さいました。乾杯の後、恒例の「祝い膳」が振る舞われ、とても喜ばれていました。



## 《餅つき》

午後は、玄関前にて『餅つき』を行いました。つきたてのお餅をほおばり、桜の下で皆さんの笑顔が満開になりました。



今年は例年より桜の開花が早く、まさに桜花爛漫の新年度のスタートです。

利用者の皆様や職員の努力により、東桜会も20周年を迎える事が出来ました事は、大変喜ばしい事であり、感謝にたえません。

4月に入り、小麦粉や牛乳の値上げ・後期高齢者医療制度と皆様にとりまして頭の痛い事ばかりかと思えます。福祉の業界も昨年に引き続き、介護報酬削減・人材不足等厳しい状況でのスタートとなりました。待っている時代から営業(競争)の時代。利用者のニーズに合った独自のサービス提供を考えていかなければ勝ち残れません。「創意工夫」前理事長がよく言われた言葉です。職員一人一人の創意工夫に期待します。本年度もよろしくお願い致します。

平成20年4月吉日

## ～ 新しい職員の紹介 ～



初めまして。3月からケアハウス桜花で働くことになりました  
入居者様や職員の方達と、毎日楽しく過ごせるように頑張ります。経験不足で色々  
ご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願い致します。

ケアハウス桜花 相談員 鈴木佳乃



ケアハウス桜花で4月から栄養士として勤務しています。覚えなくてはならないこと  
が沢山あり、毎日忙しく過ごしていますが、早く慣れるように頑張ります。余裕が出来  
たらやってみたい事があるので楽しみにして下さい。

ケアハウス桜花 栄養士 石田智子



縁あって麻機園に入社し5ヶ月が経ち、利用者様とご家族や利用者様と職員など、い  
ろいろな場面で、人と人とのふれあいの温かさを実感しています。  
福祉の職場で働くのは初めての経験で、毎日が勉強する事ばかりです。これから、様々  
なことを心で感じて学んで行きたいと思えます。よろしくお願い致します。

特別養護老人ホーム 麻機園 事務員 池谷朋子



麻機園で働き始めて、もうすぐ一年になろうとしています。事務所の入り口近くが私  
の席です。ご家族様や業者さんと接する事が多くあります。施設に明るい印象を持って  
頂けるよう、窓口で丁寧に対応したいと思えます。

特別養護老人ホーム 麻機園 事務員 坂井仁美

### 私達にできること

木村文

祖母を泣かせた事がある。

「今の内に身辺整理した方がいいよ、タンスと  
か、この部屋の物とか」と言いながら、祖母と  
片付けをした、その後の事だ。

いつのまにか、出来ていたことが出来なくな  
った。仏壇にはうすすらと埃が積もった。冷蔵  
庫の中は黒カビが生えていた。祖母の椅子のま  
わりは物であふれ返っていた。

日常の中の細々とした「できなくなったこと」  
が私をイライラさせ、それが冒頭の言葉になっ  
た。今ではとても反省している。

片付けをして出てきたのは、昭和二十年の、  
祖父からの手紙だった。原稿用紙の、ハガキの  
隙のないくらいにびっしりと細かい字で、妻子  
を案じる手紙だった。それらがお菓子の缶詰い  
っぱいにあった。

祖母の、今に繋がる人生を、私は簡単に「片  
付ける」と言ってしまった。

ここにいる入所者の方やご家族は、どんな決  
意をして、覚悟をして、片付けをして、入所し  
てきたのだろうか。入所者の方のたんすなどを  
整理して思っ時がある。

ここを利用されている方々と接していても、  
去年出来たことが今年出来なくなってきたい  
る、と思うことがたびたびある。一日の中で何  
度も聞く「ありがと」「わりいね」「すまない  
ね」の言葉にその言葉以上のどれだけの思いが  
詰まっているだろうか。

老いていく哀しみや不安を私達職員は解消し  
てあげることが出来ない。ただ、想像すること  
は出来る。愚痴を聞いてあげることが出来る。  
そばにいて、「これから」を一緒に考えることは  
出来る。

そんな想いを持ち続けながら、これからも毎  
日仕事に励んでいきたい。